

## 事業名 ジュニアジオガイド講座

[主催] 国立阿蘇青少年交流の家（国立阿蘇青少年交流の家開所 60 周年記念教育事業）

[共催] 阿蘇ジオパーク推進協議会

[委託元] 環境省 九州地方環境事務所 阿蘇くじゅう国立公園管理事務所

[後援] 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会

[期日] 第1回 令和6年9月21日（土）～9月22日（日）【1泊2日】

第2回 令和6年9月28日（土）～9月29日（日）【1泊2日】

第3回 令和6年10月5日（土）～10月6日（日）【1泊2日】

[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家、池の窪牧野、阿蘇神社、往生岳、草原学習館、大観峰 等

[参加者] 21名（小学生11名 中学生10名）

[講師] 永田 紘樹 氏（阿蘇ジオパーク推進協議会事務局長）

渡邊 裕介 氏（阿蘇ジオパーク推進協議会次長）

松原 かおる 氏（環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所）

高木 政夫 氏（池の窪牧野組合組合長）

早野 慎哉 氏（WakuWaku OFFICE あそ Be 隊）

原 大貴 氏（公益財団法人阿蘇グリーンストック）

久保 堯之 氏（熊本地震震災ミュージアム KIOKU 統括マネージャー）

天野 時生 氏（熊本地震震災ミュージアム KIOKU ガイド）

[スタッフ] 交流の家職員 5名 法人ボランティア 4名 阿蘇ジオパーク推進協議会 4名

### 1 趣 旨

- （1）国立阿蘇くじゅう国立公園・阿蘇ユネスコ世界ジオパークをフィールドとして阿蘇の草原や火山について体験を通して学び、阿蘇の魅力について伝えるジオガイド活動に取り組む。
- （2）草原の維持、水資源涵養、世界ジオ認定の継続、世界文化遺産登録実現等の地域課題等について、社会教育の視点からアプローチする。

### 2 目 標

- （1）事業全体を通して参加者の満足度について8割以上を目指す。
- （2）阿蘇について学ぶことやガイドについて考える活動について満足度8割以上を目指す。

### 3 事業展開

- （1）プログラム（各回の主な活動）

第1回 ジオエクスプローラー	
9月21日（土）	9月22日（日）
9：30 受付	6：30 起床・身支度
10：00 開会式	9：15 ガイダンス③「阿蘇の大地」
11：00 草原探検（オリエンテーリング）	10：30 まとめ
14：00 池の窪牧野探検（夜峰山近辺）	11：00 カルデラ実験
19：00 ガイダンス①「テーマ設定」	13：20 阿蘇神社（水基めぐり）
20：00 ガイダンス②「ガイドの伝え方」	14：50 役犬原自噴湧水見学
21：00 振り返り	15：00 まとめ

第2回 ジオレンジャー	
9月28日（土）	9月29日（日）
9：00 受付・登山準備	6：30 起床・身支度
10：00 往生岳登山口	9：30 草原学習館
12：30 昼食（持参弁当）	9：45 スペシャルワークショップ
ガイダンス④「国立公園ガイド」	10：00 ワークショップ①

15:30 往生岳登山口	11:00 ワークショップ②
16:30 交流の家	14:00 大観峰散策・下見
19:00 振り返り・原稿案作成	16:00 解散

第3回 ジオガイド	
10月5日(土)	10月6日(日)
9:30 受付	6:30 起床・身支度
10:30 震災ミュージアム KIOKU 見学 新阿蘇大橋・立野ダム経由	9:00 原稿最終チェック
14:00 交流の家	11:45 大観峰現地ガイドリハーサル
14:30 疑似野焼き体験	13:00 ジュニアジオガイド
16:30 振り返り	15:45 交流の家
19:00 原稿作成・リハーサル	16:00 閉会式(認定証授与)
	16:30 解散

## (2) 活動の様子



【池の窪牧野探検】



【カルデラ実験】



【往生岳登山】



【ワークショップ】



【震災ミュージアム KIOKU 見学】



【ジオガイド】

## 4 評価、成果、課題

### (1) 評価

質問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
満足度はどれくらいですか。	回答数(人)	21	0	0	0
	割合(%)	100	0	0	0
阿蘇やガイド活動について学ぶことができましたか。	回答数(人)	20	1	0	0
	割合(%)	95	5	0	0

- ・今回は笑顔で誰にでも分かるような話でガイドができたからよかった。観光で来てくれた人たちが興味を示してくれるのはうれしいし、自分もやっていて楽しかった。またガイドしたい。
- ・職員さんやボランティアの人に手伝ってもらって、外国の人にもガイドすることができてよかった。もっと長くガイドをしてみたい。

### (2) 成果

- ・阿蘇ジオパーク推進協議会との共催としたことで、専門的見地からの指導・支援が実施できた。
- ・参加対象を中学生まで拡大したことで、経験者の参加も増え、ガイド活動が充実した。
- ・体験活動を主にしたことで、参加者の満足度が非常に高くなった。

### (3) 課題

- ・荒天時でも十分な体験や学びを保障するために、日程調整やプログラムの準備について留意する必要がある。